

校名：山梨大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒400-0005 甲府市北新1-2-1 電話番号：055-220-8320

記載日：平成28年5月16日 記載者：荻原ひろみ 記載者役職：副園長

校風、おおまかな特色について

子どもが主体となる保育

本園では、子どもが主体となる保育について研究と実践を進めてきている。園生活の主人公としての子どもを教師と保護者が手を携えて支えていく、子どもの願いに真摯に応える研究と実践を目指している。子どもが主体となる保育を目的に、子ども自身が不思議と出会い、仲間と出会い、文化と出会い、そして対話をしながら、成長していく過程を研究的な保育実践によって支えることを試みている。



不思議との出会い



仲間との出会い



文化との出会い

生成する保育カリキュラムの創造へ

一人一人の子どもの活動要求が、集団の活動要求へと発展していく協同的活動の創造を実践の柱に位置づけながら日々の実践を展開している。こうした実践を実現するため、子どもと保育の姿を具体的に記録し、その記録を基に保育計画を立ち上げていく「生成する保育カリキュラム」を創造することを課題に、日常的に園内研究会において研究的な取り組みを行ってきている。

育ちの目標

- 健康でたくましい子ども
 - ・身体を動かす心地よさを味わい、のびのびと遊ぶ子ども
 - ・自分なりに考えたり工夫したりしながら、ねばり強く取り組もうとする子ども
- 感動する心・表現する子ども
 - ・興味や関心を持って環境に主体的に関わり、心を動かす子ども
 - ・様々な経験を通して、感じたことや考えたことを互いに伝え合える子ども
- 友だちと共に育ちあう子ども
 - ・互いの思いを出し合い、認め合うことが出来る子ども
 - ・ひとつの目標に向かって友だちと一緒にやり遂げようとする子ども



卒園生の活躍状況について

- ① 追跡調査はおこなっていない
- ② 本園で、名簿は管理している
- ③ 卒園生のほとんどが附属小学校、中学校へ入学するため、特に追跡調査は行ってはいない

勤務経験者が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

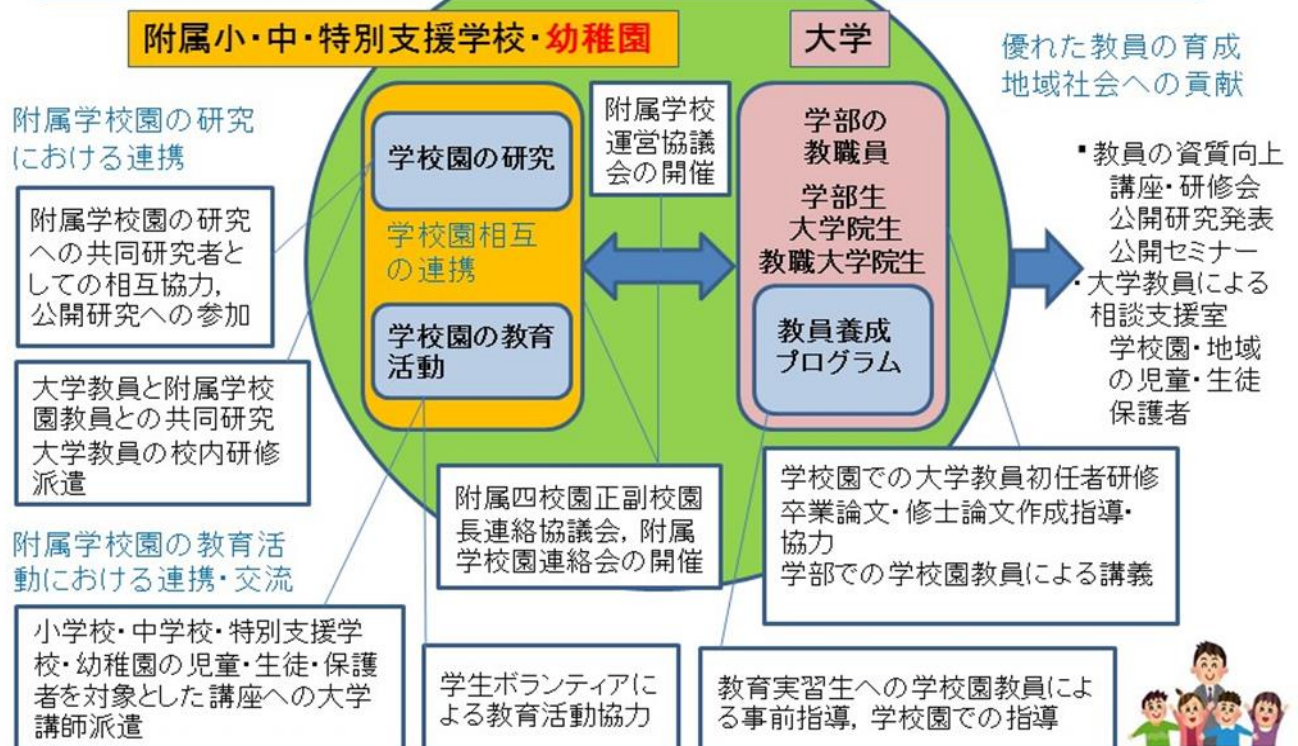
- ① 追跡調査は行ってない
- ② 本園で、名簿は管理している
- ③ 常勤職員は大学採用であり、本園で退職する場合はほとんどである

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

「子どもが主体となる保育」を目指し、さまざまな子どもの思いを受け止め、そこから立ち上がる計画に基づいて実践を創造していくことに取り組んでいる。「幼児の協同的活動」とそれを可能にするための「実践記録を基に保育計画を立ち上げていく保育カリキュラムの創造」に向けての「記録を基に、子ども・保育を検討する研究的保育実践の取り組み」や、「協同的活動を創り出す保育者—子ども関係の創造」といった課題において、他園に影響を与えつつある。

山梨大学教育学部附属学校園と大学との連携した特色のある取組

研究や教育活動における学校園相互の連携や大学と学校園との連携協力によって、学校園の教育活動の充実を図るとともに、優れた教員の育成、地域社会への貢献に資する。



地域の指導的モデル校としての機能の充実—大学・附属校園との連携から

1. 大学との研究面での連携

- ①本園の研究に共同研究者として大学教員が参加
- ②大学教員と本園教員が共同研究を行い、附属教育実践総合センター研究紀要に成果を公表
- ③本園学習会へ大学教員、留学生が講師として協力

2. 教育活動における連携

- ①子どもの育ちを促す環境や素材の提供、助言
- ②子どもの興味関心に添った大学施設の利用（「子ども図書室」など）
- ③保護者への特別講座「コミュニティカレッジ」への大学教員、留学生が講師として協力

3. 質の高い教員を養成するための連携—教員養成プログラム—

- ①「継続観察実習」を幼稚園で実施—学生自ら幼児期の特徴を学び、実習への意欲を育む
 - ・幼小発達教育コース2年次生を対象とする後期授業科目を大学教員と協働で実施
 - ・幼稚園（1学年3回観察×3学年）—観察、記録の読み取り、教員参加のカンファレンス
 - ・大学（3回）—学年ごとの観察実習の検討
- ②学生自身の主体的な学びへ
 - ・多様な保育現場において求められる「自ら学び続ける保育者」を育成することを目指し、実習生一人一人の意欲的な学びを支える教員養成プログラムを進めている。実習生も園における「生成する保育カリキュラム」に関わる存在として自覚を持ち実習に取り組み、特に研究保育においては、全体での事前研や学年別の研究会を取り入れ、学生の主体的な学びを促すことを試みている。
- ④ 大学教員の教育実習参観および研究授業研究会への参加
 - ・学生自身の今後の研究課題の探求

4. 教育ボランティアによる教育活動への協力

- ①学生との互恵的な関係に基づく実践力の育成
 - ・幼稚園の行事補助協力や大学の子ども図書室での貸し出し補助など教育活動への協力に加え事前の打ち合わせや事後の振り返りを行うことで、学生にとっても教育現場における実践力が高められることにつながる互恵性のある活動として定着している。
- ②多様な文化との触れ合い
 - ・多様な専門をもつ学生と触れあうことにより、多様な文化とのかかわりが生まれる。

5. 大学との連携

- ①大学教員の初任者研修や教職大学院生、留学生の受け入れ
- ②卒業論文、修士論文作成指導・協力などの実施

6. 大学・学部と附属学校園との連携強化

- ①附属学校の運営・経営・研究・教育活動に関わる全体的な方針・課題について協議し、大学・学部と附属学校園との連携を強化

7. 附属学校園相互の連携強化

- ①小学校との連携
 - ・研究面での相互協力、幼稚園小学校の交流活動
- ②中学校との連携
 - ・家庭科における交流活動「おもちゃ交流」、校庭施設の活用
- ③災害時等に備えた附属校園間連携体制作り
 - ・幼小中合同引き渡し訓練の実施、不審者対応への協力



地域の指導的モデル校としての研究的取り組みの公開・発表—地域との連携・貢献

1. 学校現場が抱える教育課題に対する取り組み

「子どもが主体となる保育」について研究を進めてきている。子どもたちが主体的で創造的な学びを創り出す保育の構造について、研究に取り組み、その研究の成果を地域に公開・発信する。

2. 研究成果の公開

①年2回、公開研究会を実施

- ・公開研究会には過去6年間で延べ1205名、1年間平均201名の参加者があり、地域の教育実践研究の活性化に貢献している。

②研究紀要の発行

- ・研究内容は「研究紀要」にまとめ公開、地域の学校園に無料で配布してきている。

3. 公開セミナー等による地域社会への貢献

①大学の教員を講師に公開学習会を実施

- ・現代社会における教育課題に応えるために、幼児期の発達における身体と心の様々な課題について、海外の子育て事情について、幼児教育における心理学的あるいは教育学的内容について等の「公開学習会」を開催し、地域の教育界の課題に貢献している。

4. 実践内容の積極的な公開・発表

①私立幼稚園研究会における実践内容の発表

- ・私立幼稚園との研究的な交流を積極的に行い、実践事例から互いに学び合ってきている。

②小学校低学年担当教諭との研究的な交流

- ・保育の公開、実践事例の検討を行い、幼児期への理解を深め学び合ってきた。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

★よりよい幼児期の教育をめざし、地域に研究的な土壌を創り出していく存在

地域の公立幼稚園、私立幼稚園や保育所、こども園等とともに、よりよい幼児期の教育をめざし、地域に研究的な土壌を創り出していくことが本園に課せられた任務だと考えている。

1. 全県の幼児教育関係者に本園の研究成果の公開

- ・地域における幼児教育に対する関心と研究的な土壌を創り出すことを目指した研究成果の公開

2. 地域の幼児教育に関する研究の先導的役割

- ・新採用研修の研修会における講師担当、県主催の研究会への継続的な参加

3. 研究会への積極的な参加

- ・小学校低学年教員の研究会への参加、私立幼稚園の研究会への積極的な参加

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

★教員養成の学部の附属園として、地域の幼児教育の研究拠点としての役割の自覚

地域の幼児教育の専門機関として、子どもを育てやすい地域をめざし、他機関と連携し、入園前の子ども達を含めた子育て支援についても研究的な側面から支えていくことが求められている。

1. 保育についての実践的な研究の推進と研究成果の地域への発信

- ・地域の幼児教育についての実践的な研究を推進する研究の拠点としての役割

2. 地域の子育て支援の拠点としての役割

- ・大学など他機関との連携により、専門的な理論に基づいた子育て相談や子育てフォーラムの開催等による、地域の未就園児も含めた子育て支援の拠点としての役割